

アカウミガメ生態学ぶ

下田高

産卵地
保全
ポスター作りの参考

東京都大環境学部環境創生学科の田中章教授の研究室は14日、「第8回アカウミガメ産卵地保全のための勉強会」を下田高で開いた。同校理数科の生徒33人がオンラインで同研究室の学生からアカウミガメの生態などを学んだ。

勉強会は絶滅危惧種のアカウミガメが産卵のため下田市周辺の砂浜を訪れることを、地域住民に周知するポスター作りを目的に開いた。今回得た知識を基にポスターを作り、後日、伊豆急下田駅に掲示する作品1点を選出する。掲示は来年2月を予定している。

学生はこれまでの研究から赤道以北の太平洋に生息するアカウミガメの95%は日本の海岸で生まれていること、月明かりではなく、街灯など人口の光源に



ポスター作りに向けて意見を出し合う生徒＝下田市の下田高

引き寄せられ、海に出られずに死んでしまうことが繁殖を阻む要因となることを説明。「アカウミガメの存続は産卵地が多くある日本(の環境)に懸かっている」と話した。

講義の後、生徒は「誰に何を伝えるか」「自分たちができること」

などについて意見を出し合い、ポスター作りの考えをまとめた。